

受講番号 18099 学校名 三崎中学校 氏名 池 恵美

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年 生徒数 20 名
 科目名 英語2年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 (開隆堂)

クラスの様子・特徴

私語がなく、指示されたことは確実にやらなければならないという真面目な考え方を持っているので、全体的に落ち着いた態度で学習ができる。話すことに苦手意識を持っているため、自己表現の文章が書けても、それを発表することは難しい。

問題の確定

単語が読めるようになっていても次の時間には、そのことが出来なくなっている。また、授業で反復練習の時間が十分とれていない。

予備調査

A 授業の観察

単語の発音練習、音読、ペア学習など、どんな活動も真面目に一生懸命しようとする態度が見られる。自己表現することが苦手で、基本文を本に自分で文を考えるのに時間がかかる。また、文が書けていてもそれを発表することに抵抗を感じている。(4月～6月)

B 生徒による授業評価

「英語の授業でどんな力をつけたいですか。」という質問に対して、45%が会話ができるようになりたいと答え、話すことに興味を持っていることが分かる。また、「英語の授業で難しいと思うことは何ですか。」に対しては36%が単語を覚えることと答えた。

C 学力データ

CRTテストの結果(全国を100とする) 聞くこと(87) 話すこと(84) 読むこと(94) 書くこと(82) 基本的な話し方を理解すること(54) 文字等の知識を身に付けること(60)がとくに苦手だった。(1年の3学期に実施)

リサーチ・クエスチョン

英語で会話ができるようになるために、意欲を高め、語彙や自然に話すスピードを身につけ、英会話に慣れさせるためには、どのように指導すればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

⇒ 毎時間、教科書の音読をすれば、自然なスピードで読めるようになったり、リズムやイントネーションを意識した発音が身につくのではないかと。また、それが自信につながり、話すことに抵抗を感じなくなるのではないかと。

実践1

⇒ 毎時間授業の初めに(9月からは単語テストの後)教科書の音読を2分間実施した。読み方が分からない生徒は挙手をし教師が教えた。読んだ回数は2minutes Readingカードに記入させた。毎回2分間の中で3名程ワンセクションを読んでもらい教師がチェックしていった。実施後一ヶ月で全員のチェックが終わり、読み方が分からなくて挙手する生徒がいなくなったので2学期からチェックはやめた。(5月～12月)

検証1

⇒ 11月後半のアンケートから、95%が音読が自分のためになったと感じている。具体的には「前よりも読むスピードや発音が良くなった。」「読みながら意味も考えられるようになった。」「などがあり、一番多かったのは「スラスラ読めるようになった。」「だった。また、「会話文を少し覚えて、ALTの人が来た時にその会話を話せる。」「英会話が少しできるようになったと思う。」「という感想もあり、この活動は効果的だったと考える。

仮説2

⇒ 毎時間、単語テストをしていけば、語彙が定着し、その結果、自分の考えをより明確に伝えるときにも相手の言っていることや気持ちをより正確に理解できるようになるのではないかと。そして、意欲的に会話ができるようになるのではないかと。

実践2

⇒ 毎時間授業のはじめに5問ずつ単語テスト(日本語を英語にする)を実施した。単語は4月から学習したものを順番に出題した。(9月～12月)

検証2

⇒ 平均点は9月(4回)81.8、10月(10回)86.5、11月(13回)83.1であった。個々の生徒については平均点が毎月同じ、または上がっていた者は40%、下がっていた者は10%、残り50%は、ばらつきがあった。アンケートによると80%の者が授業前の休み時間を使って勉強している。また、90%の者が1学期よりも単語を覚えられようになったと感じているが、語彙が定着しているかは確かではない。

仮説3

⇒ ペアで行う会話での口頭練習をすれば、英語を口にするに慣れ、また、会話の形式を身につけより自然に会話をするができるのではないかと。また、自信をつけることができるようになるのではないかと。

実践3

⇒ Q&A(20問の質問と答え)をペア(3パターン)で1分間ずつ交代で行った。質問する生徒は1から20の中で、どの質問をしてもかまわないこととし、できるだけ速く、多くの英語を言わせた。単語テスト、音読の後に行った。(11月～12月)

検証3

⇒ 11月後半のアンケートでは、質問と答える時ともに、シートを見てスラスラ言えるが一番多かった。(質問する時60%、答える時45%) 20個の質問と答えについて覚えた数(質問と答えをセットで覚えている)は、3つぐらい(45%)が一番多く、半分、1/3がそれぞれ20%、1つが15%だった。また、覚えた文の単語を代えてバリエーションをつけることができた生徒もいた。この活動はまだ途中なので、今後も継続したい。

研究の成果

2分間の音読の実施で、生徒は教科書がスラスラと読めるようになったと実感し自信をつけることができた。その結果、ペアで教科書を読む時の声が徐々に大きくなり、意欲的に取り組めるようになった。発音やイントネーションに気をつけ感情をこめて読むことや暗唱できる生徒も増えた。会話での口頭練習は、質問されたら答えるという会話の形式を身につけるには役立った。10月と12月のALTとの会話テストでは、10月より平均点が3点向上した。生徒の感想からも「前より話せた。」「や「前回よりも大きな声だった。」「などがあり、意欲的になった。

今後の授業改善の課題

実際に話す場としては、ALTとの会話テストを実施したが、学期に2回と少ないので、今後授業の中で話す場を設定していくことが大きな課題だと考える。また、単語テストや会話口頭練習もまだ途中なので、これからも継続していきたい。今までは1学期、1年という長いスパンでチェックをしてきたが、これからは生徒に自信をつけさせるための活動をしくみ、その経過を短いスパンでチェックしながら授業を展開していきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 0880-83-1003 電子メール

emi_ike@kt4.kochinet.ed.jp